

# 授業科目                                           カウンセリング技法

【担当教員名】 伊東 正裕	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択・選択・選択・必修・選択
	単位数	1	時間数	15

【一般目標：G I O】

対象者の心理的な相談に適切に応ずるために、基礎的な面接（広義のカウンセリング）技法について理解し、基本姿勢を習得する。

【行動目標】

1. 心の相談のための面接法(カウンセリング)の意義を述べることができる。
2. カウンセラーの基本的姿勢と倫理について説明できる。
3. カウンセリングの構成要素とプロセスについて説明できる。
4. 来談者の訴えを「分かること」、「受けとめること」について説明できる。
5. 来談者を「よく見ること」、訴えを「よく聴くこと」、「共に見ること」について説明できる。
6. 上記のキーワードについて、自分の意見を述べ、実践しようとする事ができる。
7. 専門家（の卵）として、実際に心の相談を受ける準備ができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
			1	オリエンテーション カウンセリング学習の意味・目的 カウンセリング技法の学び方
2	カウンセリングとは何か 面接という方法の特徴 カウンセリングの限界と問題点 カウンセラーの倫理	1.2.	同上	同上
3	カウンセリングのアウトライン カウンセラーの基本姿勢 初回面接と面接のゴール	2.3.	同上	同上
4	面接で得られる情報 訴えと来談理由の相違 構造化された観察	2.3.	同上	同上
5	カウンセリングの構成要素と基本的技法 聴くこと・見ること・問いを立てる	3.4. 5.6.	同上	同上
6	カウンセリングの展開 分かること・受けとめること	3.4. 5.6.	同上	同上
7	カウンセリングの実際 事例から学ぶこと、など	7	講義・ビデオ	同上

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	面接法	熊倉伸宏	新興医学出版社	2002 1500円
参考書	授業中に紹介する。			
その他の資料	適宜、プリントを配布する。			

【評価方法】 出席状況 レポートの提出状況 定期試験	【履修上の留意点】 授業中の実習(エクササイズ)には、積極的に取り組むこと。 この授業は、3年次のカウンセリング論の授業の基礎ともなるので、社会福祉学科の学生は、できるだけ履修することが望ましい。
-------------------------------------	--